

## 「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の進捗状況について

## (1) 計画値の達成状況

計画では、令和13年度を目標年次として達成すべき5つの具体的な数値目標を掲げています。

令和元年度は、5つの数値目標のうち、総排出量・最終処分量は計画値を達成しましたが、焼却処理量・再生利用率・温室効果ガス排出量は計画値に達しませんでした。

表1：計画値と実績値の比較（総排出量・焼却処理量・再生利用率・最終処分量の令和元年度実績値については災害ごみ量を除く）

	令和元年度			令和13年度 (目標年度)
	計画値	実績値	達成状況	
総排出量 <sup>1</sup> (t)	369,790	345,122	○	354,000
焼却処理量 (t)	242,698	242,965	×	235,000
再生利用率 <sup>2</sup> (%)	35.4	31.6	×	38.0
最終処分量 <sup>3</sup> (t)	22,386	18,396	○	13,000
温室効果ガス排出量 (t)	81,799	98,960	×	78,000

<sup>1</sup> 総排出量：以下の①、②、③の合計

①家庭系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、資源物（びん、缶、ペットボトル、古紙、布類、生ごみ、剪定枝等）、粗大ごみ）

②事業系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、事業系資源物（びん、缶、金属等、古紙・布類、厨芥類など）

③集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収

<sup>2</sup> 再生利用率：ごみの総排出量に対する再生利用量の割合（再生利用率＝再生利用量／総排出量×100）

※再生利用量：家庭系資源物、集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収、事業系資源物、不燃ごみ・粗大ごみの破碎後資源化量、有害ごみ・焼却灰等再資源化量の合計

<sup>3</sup> 最終処分量：埋立焼却灰量と直接埋立量（破碎残さ量を含む）の合計

## ア 総排出量

令和元年度の総排出量は 345,122t となり、前年度と比べて 7,859t (2.2%) 減少し、計画目標値を達成しました。

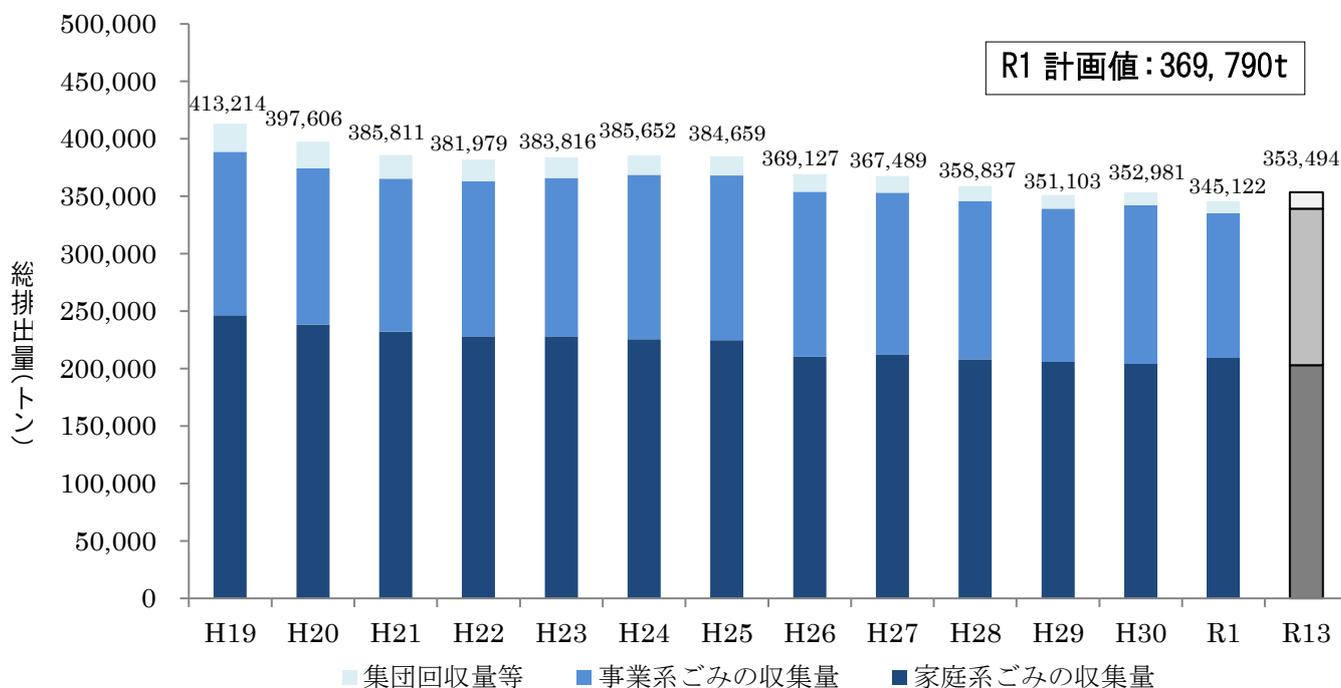


図1 ごみの総排出量の推移

### 【内訳】

- ① 家庭系ごみ  
計画：176,744 トン→実績：175,461 トン (▲ 1,283 トン)
- ② 事業系ごみ  
計画：74,520 トン→実績：73,333 トン (▲ 1,187 トン)
- ③ 家庭系資源物  
計画：50,708 トン→実績：44,216 トン (▲ 6,492 トン)
- ④ 事業系資源物  
計画：67,818 トン→実績：52,112 トン (▲15,706 トン)

### 【主な増減】

- ①家庭系可燃ごみ収集量の減少 (▲3,737 トン)
- ①家庭系不燃ごみ収集量の増加 (+1,018 トン)
- ①粗大ごみ収集量の増加 (+1,361 トン)
- ②事業系可燃ごみ収集量の減少 (▲1,201 トン)
- ③家庭系古紙・布類の集団回収量の減少 (▲4,026 トン)
- ④事業系古紙回収量の減少など

## イ 焼却処理量

令和元年度の焼却処理量は 242,965t となり、前年度と比べて 2,223t(0.9%)増加し、計画値の 242,698t に達しませんでした。

このうち、家庭から排出される焼却ごみの量は 169,662t（前年度比 3,127t（1.9%）増）に、事業所から出される焼却ごみの量 73,303t（前年度比 904t（1.2%）減）となりました。

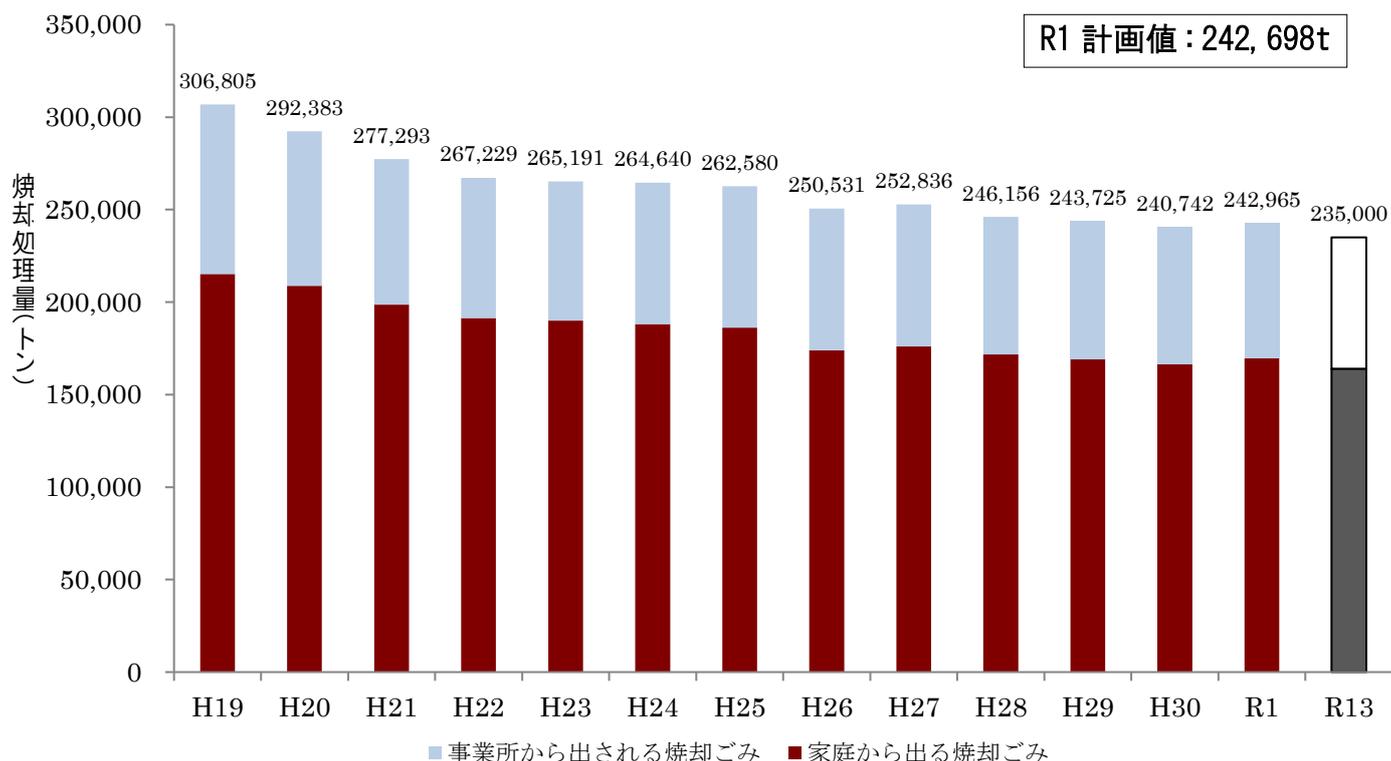


図2 焼却ごみの量の推移

### 【内訳】

- ① 家庭から排出される焼却ごみ量  
計画：168,195トン→実績：169,662トン（+1,467トン）
- ② 事業所から排出される焼却ごみ量  
計画：74,503トン→実績：73,303トン（▲1,200トン）

### 【主な要因】

- ①災害に起因して発生したごみが通常収集分（可燃ごみなど）として搬出されたことによる
- ②ごみ削減普及啓発による効果
- ②新型コロナウイルス感染症の流行に伴う事業活動の縮小

## ウ 再生利用率

令和元年度の資源物の収集量は 85,714t でした。

このうち、家庭から出された資源物（集団回収等を除く）は 33,602t となり、前年度と比べて 1,338t（4.1%）増加しました。

また、事業所から出された資源物は 52,112t となり、前年度と比べて 11,362t（17.9%）減少しました。

集団回収等や焼却灰の再資源化等を含めた最終的な再生利用量は 109,152t で、このことから再生利用率は 31.6% となり、前年度と比べて 1.8 ポイント低下し、計画値である 35.4% に達しませんでした。

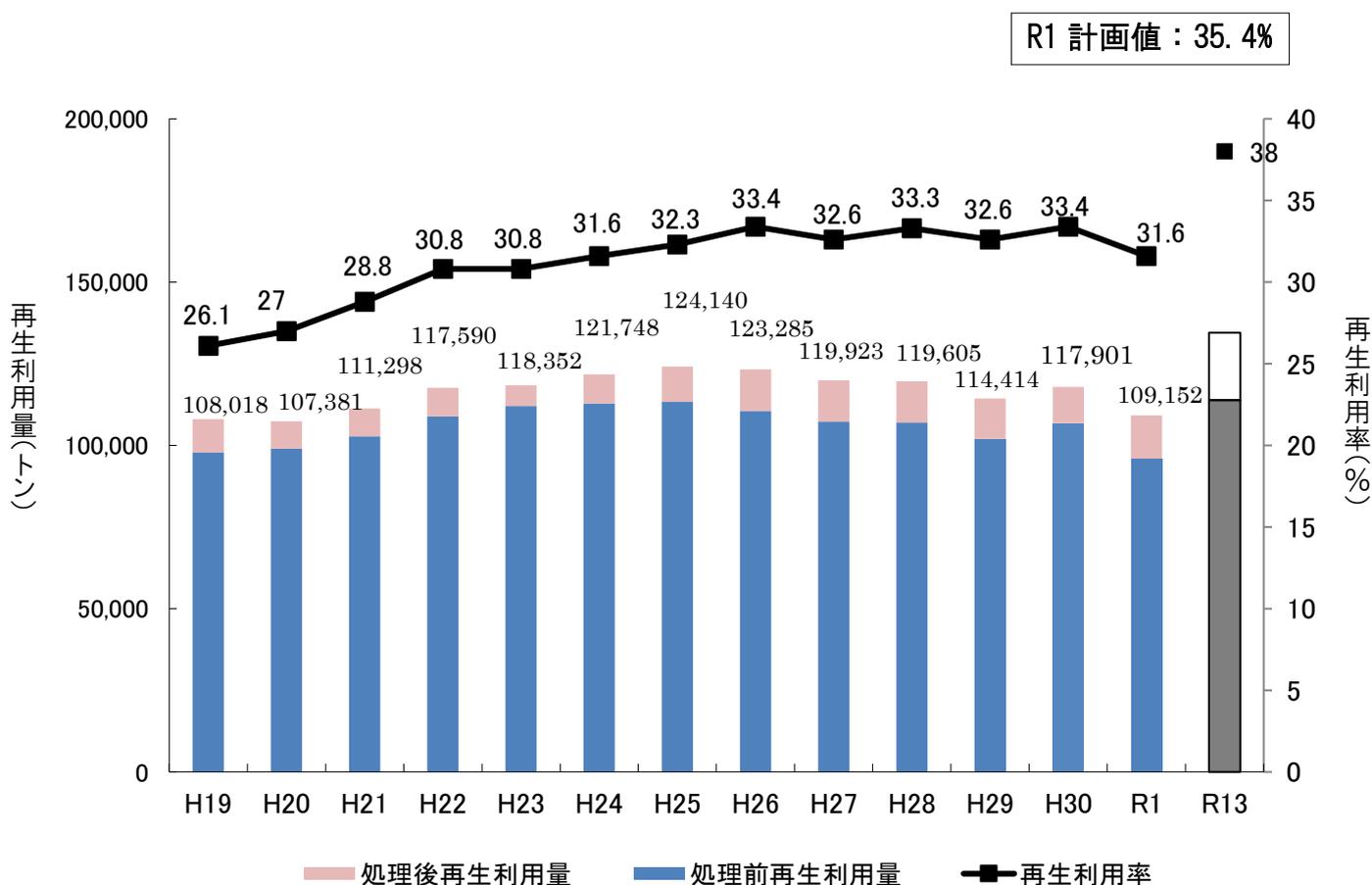


図3 再生利用量、再生利用率の推移

### 【内訳】

- ・家庭系資源物再資源化量（集団回収を除く）  
計画：36,409トン→実績：33,602トン（▲2,807トン）
- ・事業系資源物再資源化量  
計画：67,818トン→実績：52,112トン（▲15,076トン）

### 【主な要因】

- ・家庭系古紙・布類の収集量の減少（▲1,841トン）
- ・事業系古紙の再資源化量の減少など

## エ 最終処分量

令和元年度の最終処分量は、民間施設の活用により不燃残渣の再資源化量が増加したことなどから、18,396t となり、前年度と比べて1,659t (8.3%) 減少し、計画目標値を達成しました。

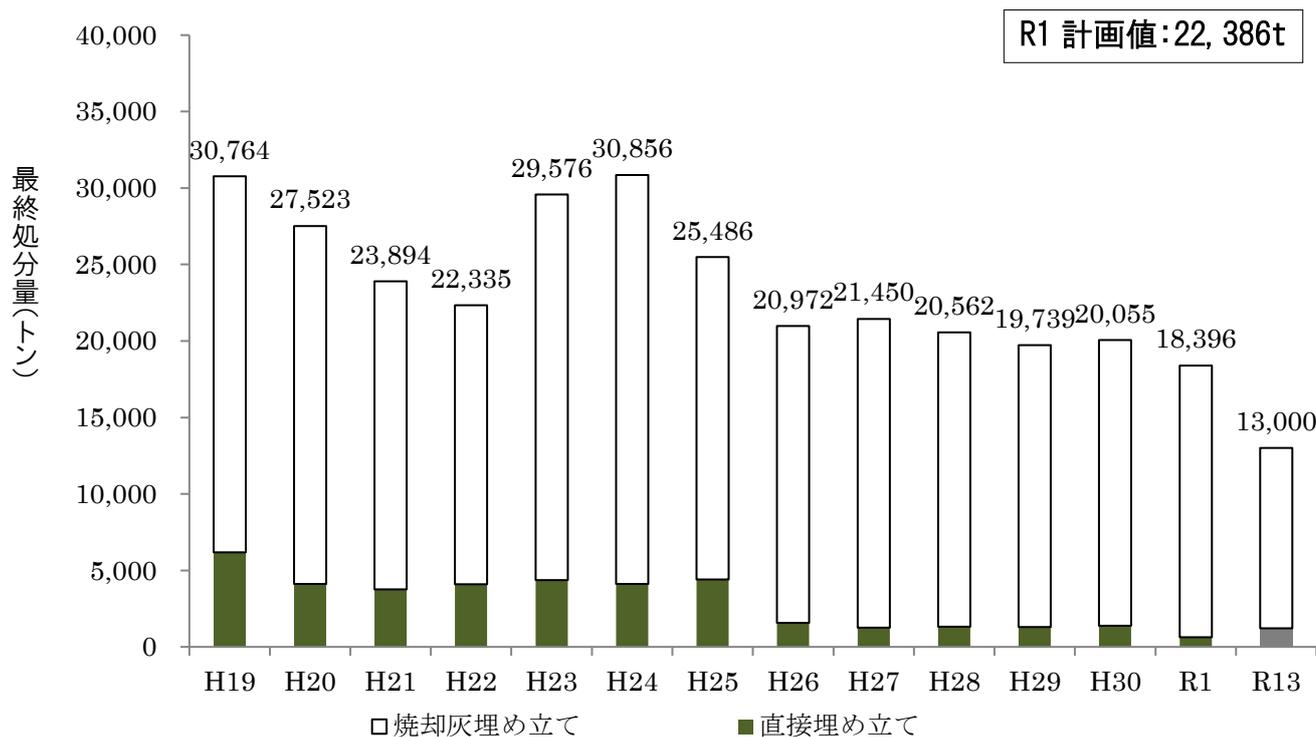


図4 最終処分量の推移

### 【取組結果】

#### ① 焼却灰発生率

計画：10.8%→実績（北清掃工場）：6.2%

#### ② 焼却灰埋立量

計画：21,127トン→実績：17,772トン（▲3,355トン）

### 【主な要因】

- ・ 焼却灰発生率が推計値よりも低い
- ・ 新浜リサイクルセンターから発生する不燃残渣の再資源化量の増加

## オ 温室効果ガス排出量

令和元年度の温室効果ガス排出量は焼却ごみの組成変化等により 98,960t となり、前年度と比べて 1,765t (1.8%) 減少しましたが、計画値の 81,799t に達しませんでした。

表 2：温室効果ガス排出量の内訳

(単位：トン)

	清掃工場稼働 に伴う発生量 (A)	廃棄物の焼却 に伴う発生量 (B)	売電、熱供給に 伴う間接削減量 (C)	合計 (A+B-C)
計画	※	※	※	81,799
実績	1,881	118,198	21,119	98,960
実績－計画				17,161

※計画値は、全体の排出量のみ計上しています。

### 【主な要因】

- ・ 計画策定時に比べ、焼却ごみ中のプラスチック類の組成割合が上昇 (H27：28.5%→R1：30.7% (+2.2ポイント))
- ・ 新港清掃工場のスーパーごみ発電廃止及び民間企業への蒸気供給停止の影響により、間接削減量が減少